

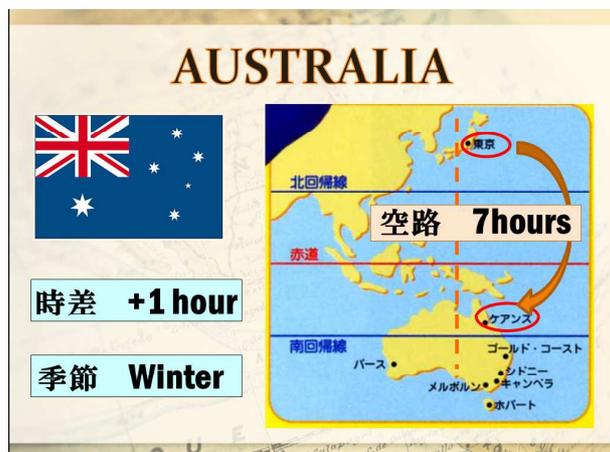
# オーストラリア農業研修 2014



G' day mate!

Now we are going to show you a presentation about our Agricultural Training Program in Australia.

私たちは7月28日から8月6日にかけての10日間、オーストラリアの北東部ケアンズ近くのアサートン高原で農業研修を行いました。ケアンズは日本のほぼ真南にあり、フライトは7時間近くかかったのですが、時差はプラス1時間だけでした。南半球にあるオーストラリアはちょうど冬でしたが、日本の春先ほどでいい気候でした。



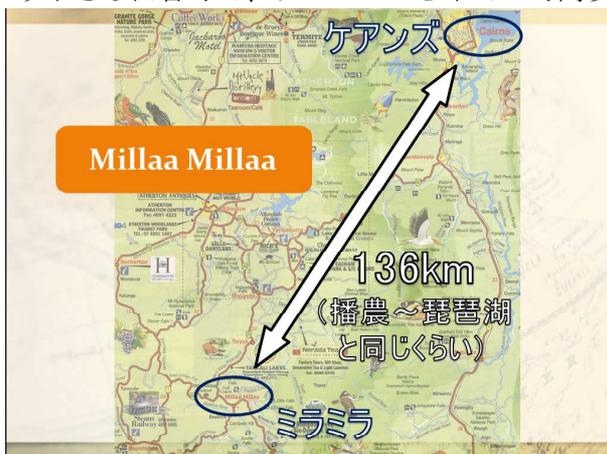
ここで、オーストラリアの基本情報です。

オーストラリアの正式名称はオーストラリア連邦で、イギリス連邦内の自治国の1つです。元首はイギリスのエリザベス女王です。その証拠にお札やコインには女王の顔が記されています。首都はシドニーではなくキャンベラです。総面積は日本の21倍もありますが、人口はたったの5分の1しかありません。そのため、研修中も人よりも牛やカンガルーを見かける方が多かったです。



BASIC INFORMATION	
■正式名称	オーストラリア連邦
■元首	エリザベス女王（イギリス人）
■首都	キャンベラ
■面積	日本の21倍（769万km <sup>2</sup> ）
■人口	日本の5分の1（2130万人）

私たちが研修をした町は、ミラミラという小さな田舎町で、ケアンズから車で2時間以上も離れています。熱帯雨林に囲まれたミラミラは、アボリジニの言葉で『水が豊富な街』を意味し、滝がたくさんありました。この町を含む一帯を開拓したのは、白人の探検家クリスティ・パルマーソンとその友人でアボリジニのボンポです。彼らを通った道はパルマーソン・ハイウェイと呼ばれ、私たちのファームステイ先もその道沿いがありました。



続いて、ファームステイ先での生活についてです。

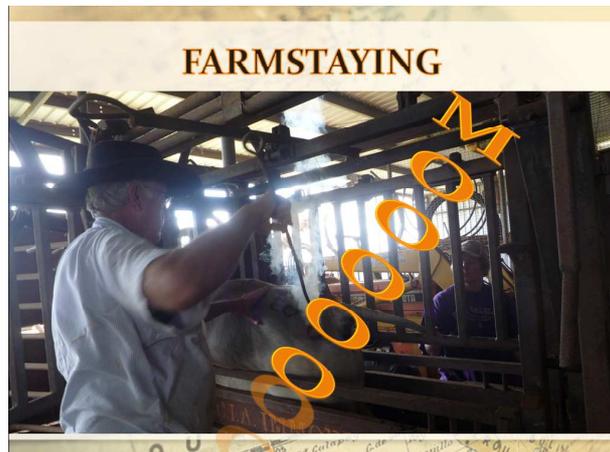
私たち女子4人は、カーメルさんという1人暮らしの女性のファームにお世話になりました。カーメルさんの農場は、播磨農業の2倍あり、100頭近い肉牛が放牧されていました。湯沸かし器のタンクの加減で、お風呂は1人7分で、髪の毛長いメンバーは苦戦しました。

それより大変だったのはご飯の量です。

毎食ボリュームで最初は残していたのに、最後は全員おかわりできるようになりました。



ファームでは、入荷された牛の耳標付けや焼印作業を手伝いました。焼印では、牛を器具に固定し、焼き鋺を当てていくのですが、怖がって逆立ち状態になっていたり、痛くて鳴いている子もいて可哀そうでした。



そのほかにも、男子と一緒にバナナ農園やサトウキビ農園に見学に行ったり、ピーナッツ農園に立ち寄ったりして、さまざまな事を学びました。



私たち男子4人は、グラディスさんのお宅にファームステイしました。グラディスさんのおうちはさらに大きな畜産農家で、家族やペットもたくさんいてにぎやかでした。そのせいかお風呂は女子より短い3分で、かなり大変でした。



ファームでは庭木にマルチングをしたり、肉牛の耳標を外して掃除をしてやりました。また女子のファームと一緒に焼印作業をさせてもらったり、他の農園に見学に行きました。

ある日、『天空の城ラピュタ』のモデルとなったと言われている『カーテン・フィグ・ツリー』を見に行きました。別名、絞殺しのイチジクと呼ばれ、ある木に絡みつきながら大きくなるのですが、まきつき方がきつくて、まきつかれた方はやがて枯れてしまうので、そんな恐ろしい名前がついています。



また、ピクニックに行ったときはカモノハシを発見しました。カモノハシはくちばしがありますが、実は哺乳類です。かなりかわいかったです。



またある日には、先生たちも一緒に、アーバインバンクという小さな町で行われたお祭りに参加することになりました。ファームステイ先のミラミラから、北西へ車で2時間。舗装されていないサバンナを通りぬけ、車は泥だらけでした。



アーバインバンクは昔オーストラリア最大のスズの鉱山で栄えましたが、いまは小さな田舎町です。女子が甘いものに気を取られている中、男子は砂運び競争や綱引きでお祭りを盛り上げました。また、プロのバンド『ヒルビリーゴート』の演奏があり、そのメンバーの1人はなんと、女子のステイ先の娘さんでした。



オーストラリアの面白情報です。

オーストラリアのスーパーでは、レジに長いベルトコンベアのようなものがあり、かごに入れた商品を自分でそこに並べて、店員さんがレジ打ちしやすいようにします。店員の足元のペダル操作で、徐々に商品がバーコードリーダーの方へ進んでいきます。牛乳など長いものを縦置きするとこけます。



あれだけ海がきれいなオーストラリアですが、ほとんどの浜辺が遊泳禁止になっています。その理由は入り江ワニ。毎年何人かは食べられるそうです。



オーストラリアやイギリスは、他の国と階の数え方が違います。日本で言う 1 階は、グランドフロアつまり 0 階にあたり、2階のことを 1 階と言います。このことを知らないと、いつまでたっても地上に出られません。



また、オーストラリアの緊急番号はすべて『000』で、事件があっても、火事でも病気でもとりあえず『000』を押せばいいので、緊急時は焦っているはずなので便利です。



オーストラリアには、いまでもアボリジニの言葉があちこちに見られます。特に、地名や野生動物の名前は、アボリジニの言葉を使っているものが多いようです。例えば、カンガルーは、『ワカラナイ』という意味です。ヨーロッパ人が森を歩いているときに、カンガルーを見て何という動物なのか聞きましたが、ガイド役のアボリジニの人は、ヨーロッパ人の言葉がわからず『カンガルー（ワカラナイ）』と答えたのが起源と言われています。また、コアラは『水を飲まない』という意味で、実際にユーカリの葉の水分以外、ほとんど水は口にしません。ちなみに、1日 24 時間のうち、20 時間は寝ていて、残りの 4 時間はお食事タイムです。そして、可哀そうなことに、



ウォンバットは『平たい鼻』という意味だそうです。ちなみにコアラとウォンバットの祖先は同じで、地面に残ったものがウォンバット、木に登ったものがコアラに進化しました。



10日間という短い間ですが、大変貴重な経験ができました。みなさんもぜひ来年の研修に参加してみてください。

Thank you for your listening! Oo-Roo!

